

## 症例報告

### 骨盤位・妊娠 34 週から鍼灸を加えた胎位矯正

岩元 健朗

産科病院で骨盤位を矯正するのに鍼灸治療を受けることを勧められ来院した患者である。産科病院で骨盤位矯正の体位について指導を受け試みたが改善がみられなかった。妊娠 34 週から骨盤位の矯正を目的に鍼灸治療を開始し 4 回の施術を行った。初診から 2 週間後の産科病院によるエコー検査で頭位が確認された症例である。

症 例：30 歳 女性 主婦

初 診：平成 23 年 7 月 16 日

主 訴：逆子（通っている産院で鍼治療をすすめられた）

現病歴：6 月の初め頃、逆子になっていることを産科病院で指摘され、胎位矯正に良い体位や安静時姿勢位などの指導を受け、逆子の胎位矯正を試みたが改善がみられなかった。

今回の妊娠は 2 人目である。逆子を治して自然分娩で出産したいと思っている。3 年前に第一子を自然分娩で出産し安産であった。

現在、妊娠 34 週であるが産科病院で逆子の治療に鍼灸治療を受けることを勧められた。妊娠後の体調については悪阻や妊娠中毒・不眠などはない。少し腰が張る程度でこれまで順調に経過している。出産予定は 8 月 23 日である。産科で習った胎位矯正は「四つん這いでの姿勢の保持 5 分間と寝ている時は骨盤を上げる」であった。

既往歴：特記すべきものなし

家族歴：特記すべきものなし

診察所見：身長 158 cm、体重 54kg、血圧 120/64 mm Hg。体格は小柄で色白、やや太め。触診により手足・下腿・腹部に冷え。腹部は弾力があり柔らかく張りは感じられない。母体を感じる腹部の感覚は上腹部の左側に胎児の頭部があり、左右に動くのを感じる。また、下腹部に胎児がお腹を蹴るのを感じる。腹部の触診から胎児の体位について、上腹部左側に頭部が触れ、胎児の背面が母体の左側腹部にあり、胎児の下肢が母体の下腹部にあることが分かる（図 1）。

脈診：沈 数 細 滑 腎虚。

舌診：紅舌 白苔 胖大 齒痕 尖紅 瘀斑。

腹診：弾力あり 柔らかい。

診 断：骨盤位（逆子）

対 応：昔から逆子を鍼やお灸で治すということはよく知られた治療法です。特に副作用もございませんので安心して治療をお受け下さい。現在、妊娠 34 週という事ですが、一般的に 36 週までは逆子の矯正は可能といわれておりますので、逆子が治る可能性は充分にあります。また、鍼やお灸をすることで安産につながりますので体調や経過を見ながら治療をさせていただきます。逆子の治療につきまして、鍼灸でお腹の環境を整え胎児の自然な胎位矯正を促すようにして行きます。具

体的には母親のお腹を温かくして、張りをとり、柔らかくします。また、骨盤にハマり込んでいた胎児の足を抜き出して、ゴムまりのように体を丸くして行きます。すると胎児は自分の力で回ってくれます。胎児はお母さんのお腹の中で一番居心地のいいところにいます。足が冷えていたりお腹が冷えていたり、お腹が硬く張っていたりすると頭が上にある方が居心地がいいようです。また、胎盤の位置や子宮の形の関係で頭を上にしていただ方がいい場合や、へその緒が短かったり引っかかっていたりして、うまく回れないことがあるようです。このような場合、無理に逆子を治さない方がいいケースとなります。現在は帝王切開で安全に胎児をとりだすことが出来ますので、安心して出産の日を迎えられればよろしいかと思えます。鍼灸治療を通じてお母さんのお腹が胎児にとってより心地良い環境となるよう治療して参ります。どうぞ安心して治療をお受け下さい。

### 治療・経過

- 第1回(7月16日・1日目・妊娠34週)仰臥位にて腹部の接触鍼。三陰交、足三里に置鍼8分間、足底にホットマグナーを当て、遠赤外線を下肢に、赤外線を腹部に照射し温める。抜鍼後、至陰に灸点紙を用いて半米粒大の施灸3壮。右側臥位にて腎兪、大腸兪、志室に単刺(図2)。
- 第2回(7月19日・3日目・妊娠34週)足先が温かくなった。上腹部に胎児の頭があり下腹部に足の動きを感じる(図3)。第1回と同様の治療を行う。
- 第3回(7月23日・7日目・妊娠35週)臍部左に胎児の頭部があり下腹部に足の動きを感じる(図4)。産科医からは38週まで逆子が治るのを待つといわれている。胸膝位(図5)を5分間保持し腰部を遠赤外線です温め、足底をホットマグナーで温める。右側臥位(図6)を8分間保持し、右側臥位で腎兪、大腸兪、志室に置鍼8分間、赤外線照射する。仰臥位で胸当ての用の枕を腰部に入れた姿位(図7)で三陰交、足三里に8分間の置鍼。抜鍼後、至陰に灸点紙を用いて半米粒大の施灸5壮。
- 第4回(7月25日・9日目・妊娠35週)腰痛、右下肢外側にシビレ感と詰まる感じがある。胎児の頭部は臍部左にあり下肢が右側腹部にある(図8)。第3回と同様の治療を行う。
- 第5回(7月30日・14日目・妊娠36週)7月28日の産科での検診(エコー検査)にて頭位が確認できた。腹部触診にて胎児の頭部を下腹部右に確認(図9)することができた。右下肢外側にシビレ感がある。鍼灸治療は母体の体調維持と安産・右下肢外側のシビレ感に対して行う。仰臥位にて復膈<sup>せき</sup>、足三里に置鍼8分間。ホットマグナーで足部を温め、赤外線です腹部を温める。抜鍼後、足三里に灸点紙を用いて半米粒大の施灸3壮。左側臥位にて腎兪、大腸兪に単刺を施術する。治療終了後、フェイスタオル2枚で「つつかえ棒」を作り、左右の側腹部にこれを当てて晒で固定する。
- 第6回(8月5日・20日目・妊娠37週)腹部触診にて胎児の頭部を下腹部(図10)に触知できた。今朝の起床時に右膝部から大腿前面部にだるさと腰に痛みを感じる。昨日のエコー検査でも頭位の確認ができ、異常は見られなかった。「つつかえ棒」は使用しており腹部が安定して良好である。予定通り8月23日が出産予定である。第5回と同様の治療を行う。
- 第7回(8月11日・26日目・妊娠38週)腹部触診にて胎児の頭部を前回と同様に下腹部に触知できた。右膝部から大腿前面部のだるさと腰の痛みは消失する。体調は良好で順調である。第6回と同様の治療を行う。出産予定日が近づき体調も安定している為、本日で治療を終了する。

**生活指導：**暑い日が続いていますが足腰を冷やさないように注意して下さい。特にフローリングの床に素足でいますと気が付かないうちに足腰が冷えていることがあります。クーラーの効かせ過ぎにも注意しましょう。足腰を冷やしてしまいますと出産が微弱陣痛となり自然分娩に時間がかかり難産となることがあります。また、お産が近づいてきますと部屋をきれいに掃除したくなったり、出産前に色々と買物を済ませておきたいと思うようで、掃除機を中腰でかけたり、雑巾で床掃除をしたり、自転車で買い物に行ったりとお腹を圧迫する姿勢が多くなったり、腰に負担を掛けてしまうことがあるので注意して下さい。

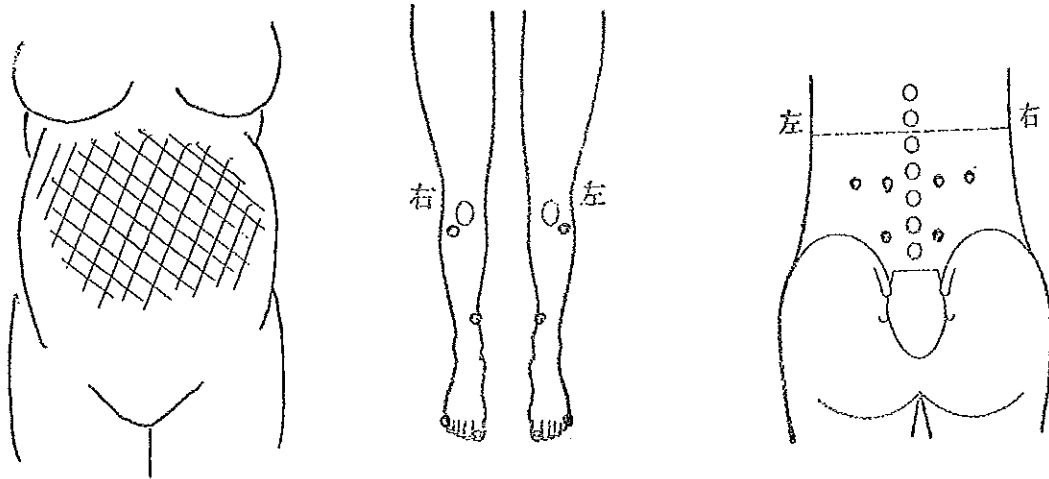
**考 察：**逆子の鍼灸治療に至陰へ施灸することはよく知られている。治療効果を高める為にも母体の体調と腹部環境を整えておくことが必要と考える。発表者の子供も逆子で至陰への施灸で治療を行ったが効果が得られず、助産師に徒手整復で胎位矯正をして頂き、その手技・方法を見学する機会があった。助産師は胎位矯正の手技を行う前に十分に母体の腹部環境を整え、胎位矯正が行い易い状況を作り、無理のない手技で逆子の治療を行っていた。その体験から至陰の施灸を行う前に母体の体調と腹部環境を整え、逆子の治療を行った。胸膝位と側臥位で胎位矯正の体勢を保持し、その後、骨盤の下に胸当クッションを入れて骨盤を挙げた姿勢をとり、胎児を上腹部に移動させ施術を行う。施術を行うにあたり上腹部の接触鍼を行い上腹部の張りをとっておくことも治療効果を上げるのに役立ったものとする。また、頭位となった後も骨盤位に戻らないように「つかえ棒」の処置も助産師から学んだものである。日常生活の中で腹部の圧迫により骨盤位に戻る可能性があるが、「つかえ棒」を行うことでその不安が和らぎ、腰痛予防にもつながるため効果があったものとする。鍼灸治療による骨盤位の胎位矯正にあたり、治療効果を高める為にも生活指導の大切さや母体の腹部の状態を整えることの大切さを再認識した症例であった。

#### 参考文献

- 1) 『病気がみえる』 vol.10 産科 P238~244
- 2) 早乙女智子：『疾患別治療大百科』 シリーズ7 産科婦人科疾患 P181~198
- 3) 入江靖二：『図説 深谷灸法』 P269
- 4) 代田文彦、出端昭男：『図説 東洋医学』 P243
- 5) 高木健太郎、山村秀夫：『東洋医学を学ぶ人のために』 P391



图1 7月16日 胎位と胎向



接触鍼

○鍼治療点

● 灸治療点

图2 治療点



图3 7月19日 胎位と胎向



図4 7月23日 胎位と胎向

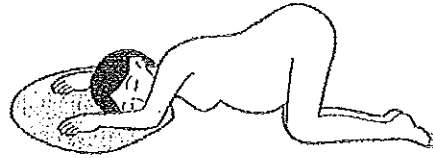
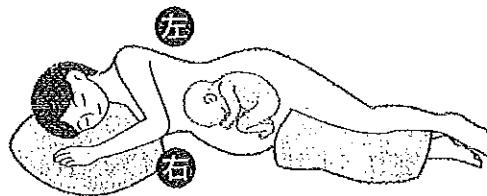


図5 胸膝位



右側臥位

図6 右側臥位

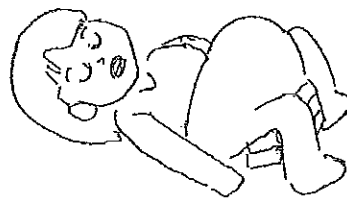


図7 骨盤下に枕

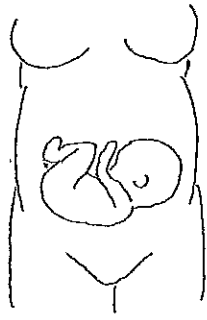


图8 7月25日 胎位と胎向

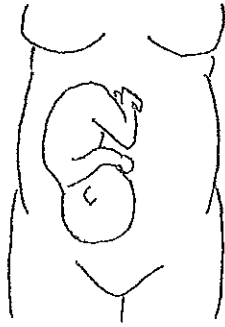


图9 7月30日 胎位と胎向

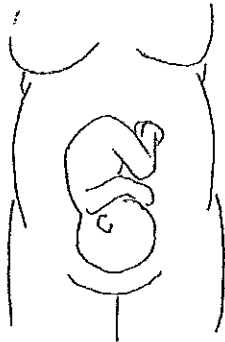


图10 8月5日 胎位と胎向